

「10月の花と実」 Hana

「柿の実物語」

❖ 山口県の民話「八代（やしろ）の鶴柿（つるがき）」

昔、親子の鶴が八代地区（熊毛町）に飛んできました。秋だったので八代の里には美味しそうな柿がたくさん実っていました。子鶴は親鶴に『柿を食べたい』とねだりましたが、鶴は木の枝に止まることができません。そこで、親鶴は枝の上で柿を食べていた鳥に、熟れた柿をもいでくれるように頼みました。鳥は『白い服がよごれないようにこれをあげよう』と言って青い柿を投げました。今度は、青い柿は渋くて食べられないので熟した柿を取ってくれるように頼みましたが、鳥は取ってはくれず、自分が食べた柿の種やへたを鶴にぶつけました。

その様子を見ていたお百姓さんは棒を持って柿の木に登って鳥を追い払い、熟れた柿を鶴の親子に取ってあげました。鶴の親子は喜んで柿を食べ、嬉しそうに飛んで行きました。

しばらく経ったある寒い日、鶴を助けたお百姓さんの子供が干柿の種を喉につまらせてしまいました。里には医者もいないので、お百姓さんは苦しんでいる子供を見てもどうすることもできませんでした。そこへ柿を取ってあげた親鶴がやってきて、長いくちばしで子供の喉につまった柿の種を取ってくれました。お百姓さんは鶴にお礼を言ったあと、「八代のつるし柿は美味しいけれど種が多くて困る」とこぼしました。それを聞いた親鶴は「天の神様にお願いしてみます」と言って帰りました。

それ以来、八代の柿は木になっている時には種があっても、つるし柿にすると種がすっかりなくなるようになりました。八代の人々は『鶴の恩返しに違いない』と考えて、つるし柿のことを鶴柿と呼ぶようになりました。

❖ 京都府綴喜郡宇治田原町に伝わる「禅定寺（ぜんじょうじ）の古老柿」のお話。

昔、宇治田原の柿は、たくさん実っても役立たずの渋柿ばかりでしたので、貧しい村人達は嘆いていました。

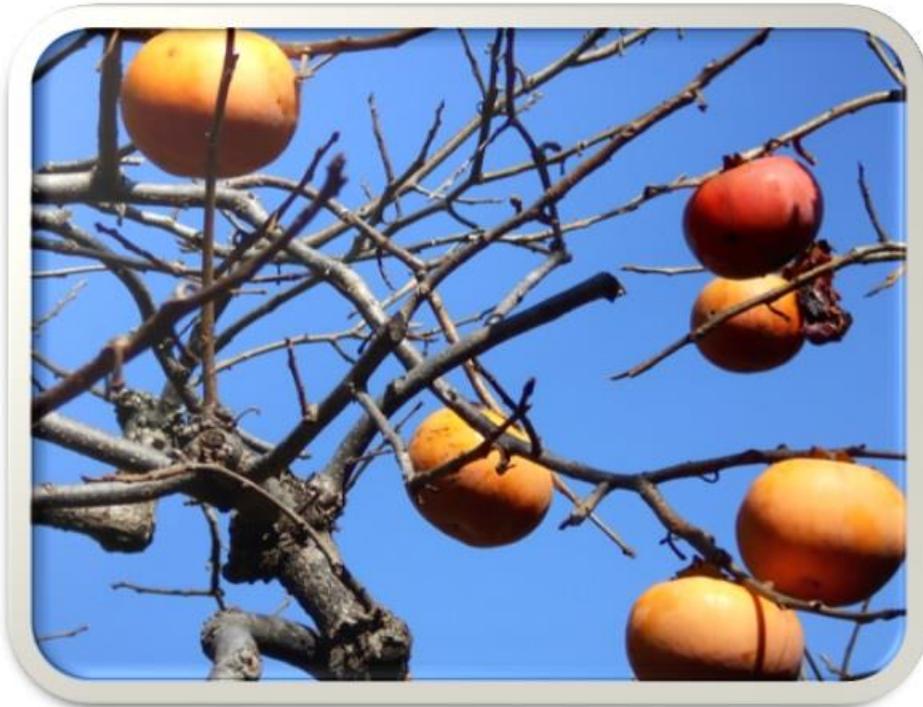
ある日、一人の美少女が村を訪れ、丸いころころした干し柿を売り歩きました。村人達はその柿の甘さに驚き、少女に聞くと、少女は製法を教えてくださいました。その後、村人が少女の後をつけて行くと、少女は禅定寺へ向かう途中の森の茂みの大石の前で忽然と姿を消しました。そして、その大石の上に紫雲がたなびき、先ほどの少女の顔をした観世音が姿を現しました。村人達は、『禅定寺の十一面観世音様が自分たちを救うために少女の姿を借りて現われたのに違いない』と思い、感謝して合掌しました。その石は美女石と呼ばれ、現在も禅定寺の奥の方にあるそうです。

それ以来、古老柿は宇治田原の特産品となりました。

(写真6枚です。みられない時には拡大してください)

物語の柿の実

青空に美味しそうですね♪



「甘柿」と「渋柿」があり、違いは渋み成分「タンニン」が口の中で溶けるかどうかできまるそうです。

金木犀(きんもくせい)

甘い芳香がします！



強い香りの花ですが、この香りには忌避効果があり多くの害虫をよせつけません。ハナアブだけは、この花に好かれているそうです。

秋バラ

赤いバラが情熱的！



薔薇には「春咲き」と春から霜が降りる頃まで咲く「四季咲き」があります。秋バラは香りが高く、色合いもバラ本来の色を発色するそうです。一輪一輪が美しく咲きます。

ホトトギス

三輪並んで可愛らしい♪



野鳥のホトトギスの胸の羽毛の模様に似ていることから名付けられました。花言葉は「永遠の若さ」だそうです。

セイトカアワダチソウ

逆さではありません 茎が下向きに、花がきれいです！



北米原産の帰化植物で観賞用に導入されたようです。
花粉症のアレルギー源と間違えられて可哀想ですね。美しいお花です。

山茶花(さざんか)

ピンクの八重の花が美しい♪



花期 10月～翌年2月 別名：岩花火や姫椿など
花の無い時期に咲く貴重なお花です。
花色はピンク、赤、白などがあり花形もいろいろです。